

皆さん、おはようございます。またこうして元気な皆さんに会えたことを、とてもうれしく思います。この夏休みは、自分の好きなことや興味のあることを深める、充実した時間になったでしょうか。

今年、令和7年は「昭和 100 年」と言われる年です。昭和に生まれた私にとって、この言葉には、どこか懐かしい気持ちと、時代の流れの重みを感じます。また今年には、「戦後 80 年」という大きな節目の年でもあります。この夏、「戦後 80 年」「終戦 80 年」「原爆投下 80 年」「被爆 80 年」といった言葉を、テレビや新聞でよく見かけた人もいるかもしれません。今年の夏は、「平和とは何か」について、深く思いを巡らせる機会が多くありました。

コロナ禍の中、私たちは不安や制限のある生活を過ごしました。これまで当たり前と思っていた普通の生活が、どれほど大切で、ありがたいものかに気づいた人も多かったと思います。当たりの毎日のを送ることが幸せということに改めて感じました。

戦後 80 年が経ち、今、こうして安心して勉強したり、友だちと話したり、学校で過ごしているのは、これまで平和を大切にしようと努力してきた多くの人たちのおかげです。そして、平和というのは、ただ戦争や争いが無いというだけではありません。お互いの違いを認め合い、相手を大切にしながら、ともに生きていくことが本当の平和と考えています。

だからこそ学校でも、友だちの話をしっかり聞き、自分の思いを丁寧に伝えることが大切です。そうした日々の積み重ねが、健やかで温かな人間関係、ひいては平和な社会を築く礎になると私は信じています。

私たち一人一人は、誰一人として同じではありません。絵の具は、たくさんの色を混ぜるとにごってしまいますが、声は違います。人それぞれの声は違っていても、一人ひとりの声が重なり合い（ときに騒音となったり、不協和音を生み出したりもしますが）気持ちが通じ合えば、美しいハーモニーを奏でることができます。そこにたどり着くまでには、意見がぶつかることもあります。うまくいかないこともあるでしょう。そんなときこそ、友だちの話をしっかり聞き、自分の思いを丁寧に伝えることが大切です。言葉を使って話し合い、心をこめてお互いを理解すること。それが、美しいハーモニーをつくる土台になるのです。

新しい学期、2学期の始まりです。新しいチームでの部活動、後期の生徒会活動、等々。新しく生まれ変わった南風祭の文化の部も待っています。この2学期の勉強や行事の中で、一人ひとりの異なる声の重なり合い奏でる美しいハーモニーを、ぜひ見せてほしいと思います。そしてそのハーモニーの先にある「本当に大切なもの」を、みなさん自身の力で見つけてください。